職業決定の過程における自我同一性と自己効力感の影響

○吉村美紀¹・宮本邦雄²

(¹ 東海学院大学大学院人間関係学研究所・² 東海学院大学人間関係学部)

Key World : 職業決定、自我同一性、自己効力感

Influences of identity and self-efficacy in the course of vocational decision

○Miki YOSHIMURA¹・Kunio MIYAMOTO²

(¹ Graduate School of Human Relation, Tokai Gakuin University² Tokai Gakuin University Department of Human Relation)

Key word: vocational exploration, identity, self-efficacy

目的

就職活動の阻害要因には、進路不決断や就職不安が挙げられる。進路不決断は、将来の進路を決めることができない心理状態(清水, 1989)、就職不安は就職決定及び就職活動段階における将来に対する否定的な見通しや絶望感とされる(藤井, 1999)。大手就職サイトでは、就職活動段階を4つの段階に分けている。OB訪問、業界研究などの準備期間、企業説明会、企業ヘントリーを行う第2段階、筆記、面接などの第3段階、内々定が出される第4段階である。森本(2008)は、こうした就職活動における職業決定の行為が、青年期大学生にとって自我同一性形成に大きく影響することを確認しており、下村(1986)は、自我の未確立と職業決定の混乱に深い関連を見出している。また、赤田・若槻(2011)によれば、大学生において自己効力感は就職決定者で高く、未決定者は、就職不安(就職情報不安、相談欠如不安、進路決定不安)の高いことを明らかにしている。

本研究では、大学生2年生から4年生において、就職活動前、就職活動中、就職活動完了の就職活動段階の自我同一性と自己効力の影響を検討する。

方法

対象者 大学生393名(男性115名, 女性278名, 平均年齢20.8±1.9歳)を分析対象とした。

調査内容

- 1) 多次元自我同一性尺度(谷, 2001)、「自己斉一性・連続性」、「対他的同一性」、「対自的同一性」、「心理社会的同一性」の下位尺度、全20項目7件法で評定。
- 2) 進路選択に対する自己効力尺度(浦上, 1995b)、全30項目4件法で評定。
- 3) 進路不決断尺度(清水, 1990)、「職業決定不安」、「職業選択葛藤」、「職業相談希求」、「職業障害不安」、「職業外的統制」、「職業情報不足」、「職業モラトリアム」、「職業準備不安」の下位尺度、全40項目5件法で評定。
- 4) 就職活動の状況を「活動前」、「活動中」、「完了」より選択。

結果と考察

多次元自我同一性尺度(以下、MEIS)について因子分析(主因子法・プロマック回転)を行った。「対他的同一性」、「自己斉一性・連続性」、「対自的同一性」、「心理社会的同一性」の4因子が確認された。次に、進路選択に対する自己効力(以下自己効力感)の因子分析(主因子法・バリマックス回転)では、「進路選択のための自己効力」、「長期的進路選択」、「短期的具体的進路選択」、「長期的持続」、「評価対処」の5因子が認められた。最後に、進路不決断尺度の因子分析(主因子法・プロマックス回転)の結果、「職業情報不足」、「職業的葛藤」、「進路不安」、「職業準備不安」、「消極的職業モラトリアム」、「職業相談希求」、「積極的職業モラトリアム」、「職業非承認不安」の8因子が認められた。項目移動や因子項目数の少なさが見られた為、抽出された8因子について2次の因子分析(主因子法・プロマック回転)を行い、「進路不決断」、「進路不安」の2因子を抽出した。

次に、全体の尺度間の相関分析を行ったところ、MEISの各

因子と自己効力感の各因子の間に中程度の正の相関が認められた。一方、職業不決断の各因子とは、職業相談希求因子を除いて低から中程度の負の相関がみられた。

学年別及び就職活動段階ごとに、MEIS、自己効力感尺度の各因子得点を説明変数、進路不決断尺度の「進路不決断」と「進路不安」を目的変数とした重回帰分析を行った。

就職活動前で、「進路不決断」に対して、「長期的進路選択」に負の影響、活動中で、「長期的進路選択」、「短期具体的進路選択」が負の影響、活動完了では、「長期的進路選択」、「短期具体的進路選択」が負の影響を及ぼした。次に「進路不安」については、活動前で、「自己斉一性・連続性」、「短期的具体的進路選択」が負の影響を、活動中で、「評価対処」が負の影響を、活動完了で、「短期的具体的進路選択」、「評価対処」が負の影響を、「対自的同一性」、「長期的持続」が正の影響を及ぼした(Table.1)。

自我同一性の統合が進み、自己効力感が高まることで「進路不決断」、「進路不安」が抑制されることが確認された。特に就職活動全般に渡って、将来的な進路に対する準備行動と高い自己効力感が、進路不決断を抑制すると考えられる。また、活動中から活動完了では、希望する企業や職業年収を調べるなど、具体的な情報収集や進路選択を行うことが、不決断を抑制している。進路不安においては、活動前では自己の不変性や時間的連続性の感覚が確立されるほど、不安が抑制され、一方で完了後では自己概念の明確さは、不安を抑制しないことが見出された。すなわち、職業決定の段階によって、不安抑制に影響を及ぼす自我同一性の感覚が異なると考えられる。さらに、活動完了後、企業研修が開始される等によって、自己の能力への不安や将来の職業生活について不安が生じると考えられる。

		(進路不決断)		(進路不安)	
		β	$F = R^2/n$	β	$F = R^2/n$
就職活動前	自我同一性尺度				
	対他的同一性	-.15	F=11.09	-.09	F=3.862
	自己斉一性・連続性	-.15	***	-.18 *	***
	対自的同一性	.01	R ² =0.31	.11	R ² =0.14
	心理社会的同一性	-.06		-.07	
	進路選択のための自己効力感				
	進路選択のための自己効力	-.16		.13	
	長期的進路選択	-.26 ***		.12	
	短期的具体的進路選択	-.15		-.20 *	
	長期的持続	.13		-.11	
(N=229) 評価対処		.08		-.06	
就職活動中	自我同一性尺度				
	対他的同一性	-.06	F=8.75	-.18	F=4.00
	自己斉一性・連続性	-.14	***	-.27	***
	対自的同一性	-.17	R ² =.49	.14	R ² =.30
	心理社会的同一性	.04		-.13	
	進路選択のための自己効力感				
	進路選択のための自己効力	-.06		.06	
	長期的進路選択	-.25 *		.17	
	短期的具体的進路選択	-.36 *		-.23	
	長期的持続	.01		.04	
<(N=93)> 評価対処		.15		-.21 *	
就職活動完了	自我同一性尺度				
	対他的同一性	-.07	F=8.01	-.19	F=5.85
	自己斉一性・連続性	-.10	***	.01	***
	対自的同一性	-.12	R ² =.57	.36 *	R ² =.48
	心理社会的同一性	.02		.02	
	進路選択のための自己効力感				
	進路選択のための自己効力	.03		.09	
	長期的進路選択	-.29 *		-.16	***
	短期的具体的進路選択	-.47 ***		-.46 ***	
	長期的持続	-.03		.36 *	
<(N=66)> 評価対処		.07		-.41 *	

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$
(YOSHIMURA Miki, MIYAMOTO Kunio)